



第二号
平成22年3月8日
発行
熊本市高平2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義昭

春季彼岸会法要 先住一周忌

二月になり、気温が一定せず、体調を崩されている方もおおいのではないかと心配しております。

今年も、下記の日程で恒例の春のお彼岸の先祖供養の法要を営みます。

昨年のお彼岸の直前に、先代住職が倒れ(十九日でした)、危篤状態に陥り、法要中に何時訃報が入るか心配で導師を務めておりました。その後二日間はお祈りして呼吸を続けていきましたが二十六日に遷化致しました。今年度のお彼岸の法要にあたり、先代住職の小祥忌(一周忌)の供養も併せて営みたいと考えます。寺の再建と興隆に一生をかけて精進していただきました。檀信徒の皆様にも一緒にご焼香頂ければ何よりの供養になるのではないかと思います。当日、小祥忌の導師には曹洞宗熊本第一宗務所長 宇

城市小川町の妙音寺ご住職 池田大智老師を拜請してまいります。一周忌の法事から続けて彼岸供養を行います。全体の時間は、例年より十二、三分長くなるかとは思いますが、宜しくお願い申し上げます。

先住は、寺に収められるお布施は全て寺の爲だけに使っておりまして、自分のサラリーマンとしての収入も寺の復興に注いでおりました。私も同じようにお寺の爲だけに使っております。今回の一周忌に当たり、お彼岸の回向とは別途の先住へのご香典等は、お気持ちだけで拝領致したく存じますが、お気を付けていただきたく、甚だ失礼とは存じますがお願い申し上げます。師匠は、寺が立派になる事だけを願っていただけで、それを望むと思いません。

浄国寺春季彼岸会

日時 平成二十二年三月二十四日(水)

午前十一時より

当山七世中興無関道全大和尚 小祥忌

彼岸会檀信徒総供養

法話 大分県杵築市

浄土寺住職 井福 昭道 老師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい

浄国寺は

浄国寺は曹洞宗のお寺です。前回の浄国寺通信で、浄国寺の簡単な歴史及び先代住職の足跡について説明しました。今回は浄国寺が属している曹洞宗について書きたいと思えます。

曹洞宗は一般に禅宗と呼ばれる宗派の流れの一つです。禅宗というくらいですから、教えの中心は坐禅です(もちろん、仏教ですから、ほとんどの教えが、真ん中です)。禅宗はインドで起こり、インド人であるダルマ大師(縁起物のダルマさんはその姿です)が中国(梁の時代)に伝えまし

た。最初、王である武帝に説きましたが、理解を得ることができず、嵩山少林寺にこもり九年間壁に向かつて坐禅を続けました。ようやく教えを嗣ぐ事ができる慧可禪師が弟子となり、中国に禅宗が広がっていききました。日本では鎌倉時代、我が宗派の開祖である道元様が、最初延暦寺等で修業を積みましたが、納得が

できず、真の仏法を求めて中国(宋の時代)に渡りました。中国で教えを求めて修業を続け、天童山で如浄禪師と出会い、教えを受け、誠の仏法に目覚め、その教えを日本に持ち帰り広めました。道元禪師は、永平寺を修

行道場として開き、修行者を指導し、弟子にその法を引き継ぎました。3代目の弟子である瑩山紹瑾禪師は、道元禪師の教えを更に深め、より多くの人に分かり易い形に作り上げました。又、能登に総持寺(現在は横浜、鶴見にあります)を開き、多くの弟子を育てました。結果、曹洞宗は現在のように日本中に広がることとなりました。この事を以て、曹洞宗では道元禪師と瑩山禪師を両祖として祀り、永平寺と総持寺を両本山としました。

曹洞宗
本尊 釈迦牟尼佛
両祖 道元禪師 瑩山禪師

本山 永平寺(福井県) 総持寺(横浜市)

教え 只管打坐 何かの目的で坐禅するのではなく、坐禅そのものが修行であり悟りの姿である

經典 修証義、般若心経 一つの所依の經典は無い

